

## 手話劇

# う え ぶ の な か

～原案 芥川龍之介「藪の中」～

### ●登場人物

ワカバヤシ ユウスケ (W)

エスミ リン (E)

バンドウ アスカ (B)

### ●三幕構成

第一幕 ティーンエージャー編

第二幕 アダルト編

第三幕 シニア編

舞台上を三分割し、登場人物の三人を配置。

それぞれ個別空間からリモートビデオ通話に参加している想定。

それぞれの場面でメインの役者は、正面におかれたカメラに向かって発言をし、その映像はスクリーンに映し出される。残りの二人は、それぞれ自身の正面に同じ映像が映っているという想定で、返答・リアクションなどを行う。

## 第1幕

### 1.1 ワカバヤシ・ユウスケのパート

ユウスケ登場。部屋に設置されたカメラの前でバットの素振りをしている。

しばらくして、リン、アスカ、登場し、それぞれの部屋からビデオ通話に参加する。

W (素振りしながらカメラを見て) 何だよ、二人とも来てんじゃん！久しぶりー、元気かー？

B (あきれて) 何してんの？

W え？わかるだろ。練習。(ふたたび素振りをして) ずっーとしてきたのに。

これ(県大会のチラシ)、中止だって。

ひどいと思わない？せっかくさ、目標にして練習してきたのに。

まあ、このご時世だからしかたないけど。

次はいつになるかわからないけど、とりあえず練習してないと落ち着かなくてさ。

B 野球バカ

W (よく聞こえない) なに？

B 何でもなーい

W まあ、それはどうでもいいや。今日は主役はリンだからね。

E ……え、わたし？

W そう。じゃーん(画用紙に書いたお祝いの文字) ハッピー、バースデー、でしょ。

E ええ！

W 自己紹介の時にさ、言ってたろ、誕生日。

だから本当は、直接会ってお祝いしたかったんだけど、今、会えないからさ。

せめてこういう形で。俺がアスカに相談して。

B ちがう、私が言ったの

W え、そうだっけ？

それじゃ早速僕らから心をこめて、せーの、

(二人でハッピーバースデイの歌を歌う)

E ……ありがとう

W ……なんか、ひさしぶりに話すから、緊張するな……

B 似合わない

W これ、ちゃんと映ってる？(再び素振りをする)

B もう、わかったから。

W ……

あのさ……せっかくお祝いしたあとで、こういうの言うのも、あれなんだけど……

B ん？

W 実は……俺……

リンに謝らないといけないことがあって……

E え、私に？

W うん。だから今日はお祝いもあるんだけど、本当はそれを言いたくてさ・・・

E .....なに？

W うん.....  
(傘を出して) これ、リンの。  
実は、盗ったの、俺なんだよ・・・  
あのとき、クラスみんなで、犯人は誰だ？って、大騒ぎになってさ、  
まさか、あんなに騒ぎになるとは思ってなかったから、言い出せなくて・・・  
.....ごめん、ほんと、ごめん！

E まって.....なんで？

W いや、たまたまだよ。  
雨が降って来た時、近くにあってさ、つい。  
誰のかは知らなかったんだよ。あとでこっそり戻そうと思ってて。  
でも、何かあんな騒ぎになっちゃって、言い出せなくてさ。  
最悪だよな、俺って。

E だけど

W ちゃんと返す。すぐに返すから。  
だから、みんなに言ってくれていいぜ。犯人は俺だったって。  
ちゃんと傘取り返したって。

E なんで.....話してくれたの？

W .....だって  
(窓の外を見て) もうすぐ、梅雨だろ・・・  
ないと、困るだろ.....

E .....  
B .....  
B .....

## 1.2 エスミ・リンのパート

E (言葉を選ぶようにゆっくりと)

ふたりとも・・・今日は、ありがとう。

・・・うれしかった。

・・・ごめん・・・こういうこと・・・慣れてないから・・・

こんな時、どんな顔していいのか、分からなくて・・・

B 素直に喜びなって

E うん・・・

・・・なんか、離れたところにいるから、余計にね・・・なんて言えばいいか・・・

・・・二人はさ・・・最初、私が教室で独りぼっちの時に・・・話しかけてくれたよね。

ユウスケ君は、学校のこと、授業のこと、部活のこと、私がわからなくて困ってる

ことを何でも親切に教えてくれた。

W 別に、普通のことだよ。

E アスカは、いっしょに帰ろうってさそってくれたり、この町のこと、色々話してくれたり、二人には本当に、感謝してるの。

B 照れるなあ

E ・・・今日だって・・・こんなに。

実は私、前の学校でいい思い出がなくって、しんどくてさ、それでこっちでも同じようになるんじゃないかって心配してたの。でも二人のおかげで今は楽しい。

B そう、人生悪い事ばかりじゃないよ。「禍福はあざなえる縄のごとし」って言うじゃない？

W え、何それ、難しい言葉つかうなよ！

E どういう意味？

B より合わせた縄みたいに、良いことと悪いことは交互にやってくるってこと。

今のリンもそんな感じでしょ？

E うん・・・ほんとね・・・

・・・だから・・・やっぱり本当のことを・・・言うね。

・・・あのとき・・・あれは・・・うそなの。

W え？

B うそ？

E そう・・・うそ・・・わたしの傘が盗られたっていうのは・・・うそ。

最初は軽い気持ちで言ったの。

・・・私ね・・・昔からそういうところあって・・・

この学校にもあとから入ったからなじめなくって、不安で、それで、みんなの注目を集めたくって、つい・・・

あー、傘がない、私の、誰かに取られたー！どうしよー！

って、笑っちゃう、あんな下手な演技。

馬鹿だよ。みんなを巻き込んでさ。

W . . . . .なんで、そんな話。

E 今日、二人にお祝いしてもらって . . . . .ああ、わたし、ダメだって . . . .  
本当のこと言わないと . . . . .このままじゃよくないって . . . . .そう思って . . . .  
それに . . . . .二人がいるから . . . . .もう、うそをついたりする必要なんてないんだって。

W でも、それって

E ユウスケくんが ! . . . . .自分が盗ったなんて、そんなこと言うから . . . .  
なんでそんなこというのよ . . . . .もう . . . . .このままじゃユウスケ君までうそつきになっちゃう。

W (傘を出し) だって、これ、ここに

E もう、それ、違うでしょ。  
だって、私自分の、嫌になって捨てちゃったもん。  
だから、ユウスケ君がもってるはずない。でしょ？  
いいよ . . . . .もう . . . . .私の罪をかぶってくれたのね . . . .  
その気持ちだけで充分だから . . . .

. . . . .

. . . . .あのさ !  
. . . . .ひとつだけ . . . . .聞いていい？  
. . . . .こんなこと . . . . .聞くの . . . . .なんか . . . . .あれだけど . . . .  
. . . . .私たち . . . . .友 . . . . .達？

W え、ああ。

B うん。もちろん。

E (ほっとして) ああ . . . . .ほんと、今日は最高の誕生日 . . . .

### 1.3 バンドウ・アスカのパート

B      なんか、こういうの、やったことないから、照れるなあ・・・

（カメラに思い切り近づき）はあい、ふたりとも、元気ー？

W      近っ！

B      うるさいなあ。リンも元気してた？

こうずーっと家にこもってるからさあ、なんか、いやになるよね。

また会えるようになったらさ、ぱーっと遊びに行こ！

（部屋の外からの母親の声に）えー？もう、何？

（カメラに）ちょっとごめん

（一度カメラから外れて、部屋の外に）あとにしてよ、今、いそがしいの！

（カメラに戻って）ごめんごめん。

えっと・・・、何だっけ・・・あ、リン、今日はおめでとう。

おめでとう・・・なんだけど・・・

・・・うんと・・・実は――、今日は、私も二人に話したいことがあってね。

だったらせっかくだからリンのお祝いもしよって、それで二人に来てもらったのよね。

W      ちがう、今日のは元々俺が

B      うーん、どうしようかな・・・

いい話とよくない話、どっちから聞きたい？

W      何だよそれ

E      ・・・よくない話？

B      そう、話が二つあってね。

・・・OK、じゃあ、まず最初はそっちからね・・・・・・・・

あのさ、さっきから・・・ふたりとも色々言ってくれてるけど・・・どっちも作り話だよ。

だって、あれ・・・盗ったの私だよ。

E      え

W      は？何言ってるの？（傘を出して）俺が、ここに！

B      それは私が、リンに返してあげてってユウスケに渡したんでしょ。忘れたの？

W      何でアスカがそんなことするんだよ！

B      ユウスケがいつまでもぐずぐずしてるから、話すきっかけを作ってあげたんでしょ。

最近だんだんそんな話す機会もなくなってるみたいだし。

私がいるあいだに、なんとかしたくってさ。

W      何でそんなこと・・・

E      まって・・・いるあいだって・・・

B      あ、うん、じゃあ、もう一つの話ね。

E      いい方の話？

B      ああ、ごめん。さっきのがいい方の話だった。

W      は？どこがいいんだよ。

B だって、これで二人の罪は晴れたでしょ。もう変な嘘つかなくていいし。いい話じゃない！  
ああ、つつい嫌なことは後回しにしちゃうのよね。これ私の性格。

E . . .聞かせて

B ん . . . . .っと。  
実は . . . . .もうすぐ二人とはお別れしないといけなの。  
家の都合でさ . . . . .来月には、もう、ここにはいないんだ。

E どこに？

B 東京

W 遠 . . .

B 何か、急な話で、私も、信じられないんだけどさ . . . . .  
本当は、最後に会って話したかったけど、それも難しそうだからさ、せめて、今日、ここで。  
. . . . .ありがとう、二人とも、時間作ってくれて。

W ちがう、今日話しようって言ったのは俺で。

B だから、そう、仕向けたのは私よ。全く最後まで馬鹿なんだから。

E まって！  
さっき、また会えるようになったら一緒に遊びに行こうって

B ごめん . . . . .でも、嘘じゃない。友達だから。いつか、また、会える。だからその時までの約束。  
それに . . . . .離れていても、ずっと一緒だから。

E . . . . .

B はあ、言ったらすっきりした。もうこれで思い残すことはないや。  
(部屋の外を気にして) じゃあ、呼ばれてるから、抜けるね。色々準備が大変なの。

W ええ！？ ちょ、まてよ、これで最後なの

B ユウスケ、がんばってね

E まって！

B バーイ

アスカが抜ける。しばしの間。

W . . . . .まったく . . . . .なんだよ . . . . .最後の最後まで自分勝手なんだから . . . . .

E . . . . .なんか、突然過ぎて . . . . .信じられない

W あいつのことだから、実は冗談でした一って、今頃笑ってるんじゃないの？  
だって . . . . .傘のことだって。

E そう、何であんなこと。犯人は私なのに。

W 俺だよ！

二人、何故だかおかしくなって笑う。

W 何で笑ってんの？

E そっちこそ。  
W ……なんかさあ、もう傘のこともどうでもよくなってきちゃって。  
E うん……  
……ほんとに……いつか……また……あえる……かな……  
W ……うん、だって友達、だろ？  
E うん。友達……アスカも……ユウスケ君も……  
W ……じゃあ、俺、まだ練習しないとイケないから、抜けるな。

ユウスケ抜ける。

E ……バイバイ。  
(窓の外を見て) あ、雨……

暗転



## 第2幕

### 2.1 ワカバヤシ・ユウスケのパート

ユウスケ登場。スーツにネクタイ。自分の部屋からビデオ通話をはじめる。

誰も来ないのでゴルフの練習を始める。

しばらくして、リン、アスカ登場。アスカは白衣、リンはドレスを着ている。それぞれビデオ通話に接続。二人、画面でお互いを確認して、手を振って再会をよろこぶ。

W (カメラを見て) 何だよ、二人とも来てんじゃん！久しぶりー、元気かー？

E うん。久しぶり。

B (あきれて) 何してんの？

W え？わかんない？これ。(ゴルフの素振り)。ずーっと楽しみにしてたんだけどなあ。

(ゴルフ大会のチラシをみせ) これ、中止だって。

まあ、このご時世だからしかたないけど。でもとりあえず練習してないとカンが鈍るからさ。

B 今度はゴルフ馬鹿？

W (よく聞こえない) なに？

B 何でもなーい

W まあ、それはどうでもいいや。今日は主役はリンだからね。

(ネクタイを直して) おほん、では改めて・・・リン、結婚おめでとう！！

B (合わせて) おめでとう！

E ありがとう・・・

W 本当は、直接会ってお祝いしたかったんだけど。

(招待状をみせて) 行く気まんまんだったのに。残念だったよな。

E うん・・・久しぶりに会いたかったけど、仕方がない。でも、いいの。

結局、式も身内だけで簡単に済ませることにして、なんだかそっちの方が気が楽だったし。

W だから、まあ、せめてね、こういう形なら、当日お祝いが言えるかなって。時間大丈夫だった？

E うん、大丈夫。ちょうど、さっき全部終わったところ。

W そうか。よし、それじゃ早速僕らから心をこめて、せーの、(ハッピーバースデイの歌いだし)

B ちょ、まってまって、きいてない、何歌うの？

W え？そりゃ、ハッピーウェディング、トゥー、ユー、でしょ。

B なにそれ

W いいから、はい、いくよ。(二人でハッピーバースデイの替え歌を歌う)

E ...ありがとう...何か、はずかしい

W いやー、ひさしぶりに話すから、緊張するな・・・

B 20年ぶりだからねー。

W 20年たっても二人とも全然変わって無いよなあ

B それ喜んでいいの？それにユウスケが一番かわってないわよ

W そうか？（顔を近づけ）大人の渋みがでてない？  
B ないない。  
E かわらない。あの頃のまんま。  
W なんか信じられないよなあ、俺たち 30 過ぎてるなんて、中身は何も変わった気がしないのに  
・・・ほんと、あっという間・・・でも 3 人で話すのはあの時以来だな。  
E アスカ、全然連絡くれないから  
B え、私のせい？ ごめんごめん。でも二人はあの後も学校で一緒だったんでしょ？  
W いや、結局、あれから、だんだん話さなくなっちゃって・・・なあ  
E うん・・・  
B え、そうなの？  
W ・・・あのさ・・・俺・・・あの時からずーっと心に引っかかっていることがあってさ・・・  
（傘を出して）これ。  
E あ、それ・・・  
W ・・・あのとき、誰のか知らずに盗った、って言ったけど・・・あれ、嘘なんだ。  
E え  
W 知ってた、リンのだって、知ってた。知ってて、盗った。  
E まって・・・なんで？  
W ・・・リンと・・・仲良くなりたかったけど、でもどうすればいいかわからなくて、  
それで、逆にいたずらして困らせてやろうと思って、いや、わけわかんないけど  
何かしないと気持ちが治まらなくて、それで・・・つい。最悪だよなあ、俺って。  
E ・・・なんで・・・今になって、話してくれたの？  
W ・・・いや、リンも結婚したし・・・もうそろそろ言ってもいいかなって・・・  
だって、ずっーと溜めてるの、気持ち悪くてさあ。  
E ・・・・・・・・  
B ・・・あんた、それ、あの時からずっと言えずにいたの？  
W ああ  
B 20 年間？  
W いや、別に、常になってわけじゃないよ。でも・・・嘘ついたことが心の片隅にはずっと残ってて  
B で、それをよりにもよってこのタイミングで言う  
W え、ダメ？  
B 馬鹿！ほんとにあんたは、あの頃から全然成長してない！！  
E ・・・あの時から・・・20 年間・・・その間、ずっと・・・  
W うん・・・（窓の外を見て）今も、梅雨だろ。  
毎年、この時期になるとさ・・・思い出しちゃうんだよ・・・  
あの頃のリンが・・・困ってるんじゃないかって・・・

ユウスケ、傘を愛おしく見つめ、やがて二人の視線に気づき、あわてて傘でゴルフの素振りをはじめ

## 2.2 エスミ・リンのパート

- E (言葉を選ぶようにゆっくりと)  
ふたりとも・・・今日は、ありがとう。  
・・・うれしかった。  
・・・どうしよう・・・こういうの・・・慣れてないから・・・
- B 慣れてたら困るって！
- E (笑って) そうだね。  
・・・ああ・・・なんか・・・20年前も・・・こんな感じだった・・・思い出すな・・・。  
今回、式に誰を呼ぼうって思った時、まっさきに二人のことが浮かんできたの。  
あ、そうだ、ちょっと待って。ええと・・・(手元の紙を広げ確認して)  
二人は・・・中学生のころ、私が教室で独りぼっちの時に・・・話しかけてくれました。  
ユウスケ君は、学校のこと、授業のこと、部活のこと、私がわからなくて困ってる  
ことを何でも親切に教えてくれました。
- W なんだよ、それ。
- E もともと予定では、こうやって、二人のことを紹介しようって考えてたの。  
アスカは、いっしょに帰ろうってさそってくれたり、この町のこと、色々話してくれたり。  
二人には本当に、感謝しています。
- B 何か聞いたことあるな
- E 三人で一緒に居た時間はとっても短かったけど、20年前のあの数か月は、  
私にとっては、今もずーっと心に残っている、かけがえのない大切な時間です。  
・・・なんちゃって。

### 二人、拍手

- E ・・・うん・・・かけがえのない・・・とても大切な・・・時間・・・  
・・・だから・・・やっぱり本当のことを、言うね。  
・・・あのときの・・・私・・・嘘をついた。  
・・・わたし・・・自作自演で傘を盗られたってことにして、それが嫌になって自分で  
傘を捨てた、って言ったけど・・・あれは・・・うそ。そうよね、アスカ。
- B え  
・・・私ね、あの頃、なんとなく予感がしてたの。  
アスカがどこか遠くに行っちゃうんじゃないかって。
- B なんで・・・
- E なぜかはわからない。でも、そんな気がしてた。  
せっかく仲良くなれそうだったのに、またいなくなっちゃうんじゃないかって。  
だから、本当は捨てるつもりの傘を無理やりアスカに渡した。何も言わず。何も聞かないでって。  
アスカに持っててほしかったの、私の傘も、私の嘘も、あの時の私の全部を、渡したかった。

なんで、そんな風に思ったのか、自分でも分からない。

だけど・・・そのあと、アスカ、本当にいなくなるなんて言うし！

W (傘を出し) え、でも・・・じゃあ、これ、

E それ、違うでしょ、ユウスケ君がもってるはずない・・・あの時はそう言ったけど、もしかしたら、あの傘をアスカがユウスケ君に渡して、二人で私の嘘を、黙って受け止めてくれたのかなって、そう思ったの。

嘘をつく私も、まるごと二人に受け入れてもらえた気がして、嬉しかった。

(笑って) だって、二人とも自分が盗ったなんて言ってさ・・・下手な演技・・・

・・・あのさ！

・・・ひとつだけ・・・聞いていい？

・・・今更こんなこと・・・あれだけど・・・私たち・・・友達だった？

W 過去形？

B 今も、友達・・・じゃないの？

E いや、だってもう、何がうそで何が本当か、段々わからなくなってきた・・・

ああ・・・あの時のことをずっと引きずってたのは私も一緒だ・・・

W ...あのさ、昔3人で最後にあったときに、急に雨が降り出して、もう帰ろうってなって。その時もリン、同じような質問をしたよね。「私たち、友達？」って。

E うん

W その質問の「私達」って、リンとアスカ？それとも俺も含まれてた？

E .....

B .....何で？

W .....いや、あの時、聞けなかった事

B それを、何で今になって聞くの！？信じられない！

ちゃんとあの時聞いておきなさいよ！

W いや、そんなこと今更言われても！もう時は戻せないから。

B そう、時は戻せないんだからね！ちゃんとあの時聞いておけばよかったのよ！馬鹿！

W ええ・・・そんな、怒らなくても・・・

E (二人のやり取り見て可笑しくなり) はははは。

楽しい、何だかあの頃に戻ったみたい！

W 笑いごとじゃないよ。まったく。

B 自業自得でしょ。

E やっぱり、今日、二人と話せてよかった・・・ありがとう。

ほんと・・・今日は最高の一日。

## 2.3 バンドウ・アスカのパート

B OK. (カメラに思い切り近づき) Hi!

W 近っ!

B Nice To See You!

W 欧米か!

B そうよ、だって、ここアメリカだもん!

W 遠!

E あ、そうか

B あ、ユウスケに言ってなかったか。もう何年も前からずっとアメリカの研究所で仕事してるの。  
(結婚式の招待状) これ、出席するタイミングで一時帰国しようと思ってたんだけど、  
今はダメね、海外渡航も禁止でさ。

(部屋の外からの声) What?? OH . . . .

(カメラに) ちょっとごめん

(一度カメラから外れて、部屋の外に) Wait a minute! I'm busy now.

(カメラに戻って) ごめんごめん。

えっと . . . .、何だっけ . . . .

あ、リン、今日はおめでとう。とってもきれいよ!

E ありがとう。

B 本当はゆっくり話がしたかったんだけどさ . . . .なんか . . . .トラブってるみたいで、  
また呼ばれそうなんだよね。

. . . .それで . . . .えっと . . . .そうだ、今日は、二人に話したいことが2つあってね。

W またそのパターン?

B え、何のこと?

まあいいや、でさ、いい話とよくない話、どっちから聞きたい?

W でた!

E ふふ . . . .じゃあ . . . .今度こそ . . . .よくない話から?

B . . . .OK、じゃあ、まずそっちからね。

. . . . .

なんだっけ?

W おい!

B あ、そうだ、あのさ . . . .ふたりともやっぱりさっきの作り話だよね。

だって、あれ . . . .盗ったの私だよ . . . .っていうのは、前にも言ったけどさ . . . .

でも . . . .ひとつ . . . .あやまらないといけなくて . . . .さ . . . .

(後ろから傘を出して) これ . . . .

E あ . . . .

B あの時、ユウスケに渡そうと思ったんだけど . . . .できなかったの。

うーん . . . . .なんかタイミングをうかがってたらお別れになっちゃってね。

だから、結局私が持ったまんま。

E      じゃあ・・・あの時から・・・今まで、ずっと？

B      そう。東京にも一緒に持って行っだし、そのあとアメリカに来るときも一緒。  
思えばこいつとも20年のつきあいになっちゃった。

E      あの時渡したの、ずっと持っていてくれたんだ・・・

B      え、だから、それは違うって。もらった記憶なんてない！私が盗ったの！

W      ちょちょちょ、何言ってるの！（傘を出し）じゃあ、これは？

B      こっちが聞きたいわよ！何なのそれは？おかしいじゃない！

E      （二人のやり取りが可笑しくなり）ああ、もう、二人ともわかったから。  
で、さあ、もうひとつ、いい方の話は？

B      あ、ごめん、今のがいい方の話だった。

W      だから、どこがいいんだよ。

B      だって、20年間言えずにいたことがようやく言えたんだもん。すっきりよ。  
ああ、つつい嫌なことは後回しにしちゃうのよね。これ私の性格。

W      （同時に）お前の性格！

E      （同時に）アスカの性格！

笑いあう3人

B      OK・・・実は・・・こうして久しぶりに二人と会えたのに、またしばらくお別れしないと  
いけなの・・・来月には、もう、ここにはいないんだ。

E      え、でも・・・またこうやって

B      今度は電波も届いてないような場所。アフリカに行くの。医療のスタッフとして。

W      アフリカ・・・

B      そう、しかも僻地の村だからさ・・・こうやって気軽にネットで話をするのも難しいかも。  
だから行く前に、今日、こうやって二人と話ができて本当によかった。

E      いつ戻ってくるの？

B      わからない。何年先になるか・・・

でも、必ず日本にも戻ってくる。だから、その時は今度こそ一緒に遊びに行こう。

E      うん・・・約束。

・・・ねえ・・・向こうにもさあ、その傘、持って行ってくれる？

B      もちろん！向こうでも一緒だよ。

それにさあ、向こうって、雨の日が多いみたいなの。だからすごく活躍するかも。

（部屋の外を気にして）じゃあ、呼ばれてるから、私、抜けるね。

リン、お幸せに！

W      え、おい、ちょっと待って！

B      ユウスケも元気で！スーツ姿、案外いいよ。じゃ、バイ！

アスカが抜ける。しばしの間。

W       ・・・まったく・・・相変らず、マイペースなんだから・・・

E       うん・・・変わってないな・・・アスカらしい

W       あいつのことだから、どこに行っても、あんな感じでやっていくんだろうな。

E       ・・・ねえ

ユウスケ君は、結局その傘、どうしたの？

W       いや、だから、これがリンのだって！俺が盗ったの！

E       私の気を惹くために？

W       え・・・いや・・・まあ、そうかな・・・

E       嘘ばっかり！

W       そっちこそ！

二人、おかしくなって笑う。

E       ・・・ほんとに・・・いつか・・・また・・・あえる・・・かな・・・

W       ・・・うん、何なら俺たちが、アスカのところに行ってもいいわけだし。

あのころとは違ってさ、俺たちもう大人だから。

E       うん、そうだね。

W       （時計を見て）やば、俺、仕事の連絡しないといけないんだった。悪い、抜けるな。

E       うん、またね。

W       リン・・・幸せにな！

E       ありがとう。

ユウスケ抜ける。

リン、しばらく画面を見つめたまま、動かない。

E       （ゆっくりと窓のほうを見る）雨か・・・

・・・二人のところにも、同じ雨が降ってるのかな・・・

リンも抜ける。

暗転

## 第3幕

### 3.1 ワカバヤシ・ユウスケのパート

老人のユウスケ登場。ゆっくりとビデオ通話をセッティング。

誰も来ないのでゲートボールの練習を始める。

アスカの部屋は薄暗く明かり。アスカはベッドに寝たきりになっている。

リンも登場。カメラに手を振る。

W (カメラに近付き) おお、映った映った。二人とも元気か？

ひさしぶりだのお。まさかこの年になってこんな形で再開できるとはの。IT ってやつか。

すごいもんじゃない。

え？ああ、これか(ゲートボールの素振り)。今度町内で大会があるんで毎日練習しとるんじゃ。

今度言うてもな、もともと春の予定が延期されて、夏の予定がまた延期、秋の予定も延期になって結局もう冬になってしまったが、いつになるやら。

今日もこっちは冷えるが、二人とも体をこわしてないかの？

こんなご時世だから、体だけは用心してな。あ、そうじゃ、ちょっとこれ、見てくれんか。

(つけ髭をつけ、サンタクロースの帽子をかぶる)

どうじゃ、もうすぐクリスマスじゃろ。この後孫たちが遊びにくるんで、その時にこの恰好でプレゼントでもあげようと思ってな。似合っとるか？

(カメラを見てうなずく) うんうん。

まさかまた3人で話せるとは思ってなかったんで、懐かしくってな。

部屋の奥から色々と引っ張り出して、あの頃のことをずっと思い出しとったんじゃ。

これ、(セピア色の写真を出し) 中学校の入学の時の全体写真。

これにはリンは写っとらん。それから、これが卒業アルバム。こっちにはアスカが写っとらん。

色々さがしたが3人が一緒に写っとる写真はなかった・・・思えば、3人でいたのは、

あの年のたった数か月の間だけじゃからな。

その時からか・・・随分と長い付き合いになったの・・・不思議なもんじゃない。

あ、そうじゃ、これをつかえば、今3人が映ってる画面が写真にとれるんかな？

あれから70年、みんな年老いてしまったが初めての記念写真じゃ。後で撮らせておくれ。

そうそう、昔のものを色々と引っ張り出しとったら、こんなものも出てきてな。

(傘を取り出す) 何だか、ずいぶん綺麗にしまわれとって、大事なものだと思うんじゃが・・・

何だったか、すっかり忘れてしまとってな。いかんいかん(頭をたたく)。

何故かこれを見ると不思議と二人の顔を思い出すんじゃが、何でわしのところにあるのか・・・

ここ何日もずっと考えとったんじゃ・・・色んな可能性をな。

ああじゃったか、こうじゃったか、いやどれも少し違う気がしても。

ああじゃったか、こうじゃったか・・・何が本当なのか、ようわからんようになってきた。

まあ、今となってはどうでもよい気もするが・・・何か覚えとらんか？



## 2.2 エスミ・リンのパート

E (言葉を選ぶようにゆっくりと)

ふたりとも・・・本当にひさしぶりね。

私も・・・すっかりおばあちゃんになっちゃったわ。

・・・聞こえる？・・・どうしよう・・・こういうの・・・慣れてないのよ・・・

(ゆっくりと昔を思い出すように)

思い出すわ・・・70年前のあの時・・・二人が私に声をかけてくれなかったら、

今日という日もなかったかもしれないのね・・・ユウスケさんは学校のこと、授業のこと、クラブ活動のこと・・・何でも親切に教えてくれた。アスカは、いっしょに帰ろうって誘ってくれたり、町のこと、色々話してくれたり。

・・・あの日、私の誕生日をお祝いするって呼びだしてくれて、そしたら急に雨が降り出して、  
(傘を取り出し) この1本の傘を広げて、その中で3人、肩寄せ合って、歌ってくれたハッピーバースデイの歌。今でもはっきりと覚えてる。ユウスケさんは私の左側ではりきって大きな声で歌ってくれて、アスカは私の右側で少し恥ずかしそうに歌って。不思議ね・・・昔の細かいことなんてもうすっかり忘れてしまってるのに、この傘を見ると、あの日のことだけは思い出す。

この傘を開くと・・・いつでもあの日に戻れるの・・・

この傘の下には・・・いまでもあの時の歌が流れている。

(傘を広げ、思い出に浸る。やがてゆっくりと傘を閉じて)

だから・・・今日は・・・ひとつね・・・どうしても謝らないといけないことがあるの・・・

本当は、もう、墓場まで持っていこうと思ってたんだけど・・・でも、今日、せっかく

こうして話ができるし・・・もうこれが最後かもしれないから・・・なぜか言いたくなかったの。

誕生日・・・自己紹介の時に言った私の誕生日、あれは嘘。本当は私6月生まれじゃない。

あれは・・・早く皆と仲良くなるきっかけを作りたいって、誕生日が近いと注目してくれるんじゃないかって変なこと思って、とっさについた嘘。本当の誕生日よりも半年も早くして・・・  
どうせそんなの誰も聞いてないとおもったら、二人はちゃんと覚えててくれて・・・

でも、あの嘘がなかったら、あの日のあの歌もなくて、そうしたら、私達どうなったのか・・・

そもそもが嘘からはじまった関係だったのよ・・・私達は・・・

ごめんなさい・・・二人に嘘をついたことは後悔している・・・でもあの嘘には感謝もしてる・・・  
不思議なものね・・・人生は。

勝手に嘘をついて、勝手に嘘をばらして、ほんと、私はわがままね・・・

で・・・わがままついでに・・・今日は・・・もう一つお願いがあるの・・・

実は・・・今日が、私の本当の誕生日・・・偶然に感謝ね・・・

だから、もう一度ふたりに歌ってほしい、ハッピーバースデーの歌を。

もちろん、離れていて構わないわよ。

離れていても、この傘の下で目を閉じたら、二人を傍に感じられるから。

リン、傘をひろげ、目を閉じる。

## 2.3 バンドウ・アスカのパート

アスカ、ベッドに横になったまま。付き添いの人がはいってきて、アスカに確認を取りながら部屋に置かれたカメラのボタンを押し部屋を出る。スクリーンにはあらかじめ録画されていたアスカの画像が映し出される。

B (カメラに近付き顔をアップ) いいかな。

はい、二人とも元気？

こうしてまた二人の顔が見られるなんて、嬉しいわ。

私はね、仕事柄、世界各国でこういうリモートで、会議やら、何やら、ずっと使ってたのよ。だから慣れっこなの。

なのに、今になるまで、これをつかえば、三人で話せるってことが何で思いつかなかったのか。まあそもそも私は、これまで、ずっと仕事、仕事の人間で、そういう過去を振り返ることに興味がなくて・・・でもダメね、年をとると、昔の思い出が恋しくなるのかしら。

(傘を取り出し) ほら、見て、これ。なつかしいでしょ。東京でもアメリカでも、そのあとといったアフリカでもヨーロッパでも、ずっとこれが活躍したのよ。だから使い古してもうボロボロだけど、今でもちゃんと使えるのよ。私の人生のおともにいつもこいつがいた。何がきっかけでこれが私の手元に來たのかは、もう忘れちゃったけど、でも、これが、3人が一緒に過ごした証だっていうのは間違いないわね。

そんなことを考えていると、急にまた三人で会いたくなってるね。でもこんなご時世だし、会うのはなかなか難しいじゃない。だから、せめてこの形でって。二人とも連絡がとれてよかったわ。そうそう、今日は私から、話したいことが二つあるの。

んーっつと (どちらから話そうか考え)

じゃあ、まず一つ目ね。

これは、話っていうか、まあ、お祝いね。

リン、本当の誕生日、おめでとう。あれから70年たって、ようやく本当の意味でのハッピーバースデイが歌えるわ。さあ、ユウスケも一緒に。

(アスカ、スローなハッピーバースデイの歌。ユウスケも合わせようとするが上手く入れない) それじゃあ、もう一つの話。

実は、わたし少し前に、日本に帰ってきているの。だから、外出の自粛要請がとけたらまたいつでも会うことができる。楽しみね。

このあたりで、ベッドで横になっていたアスカ、意識が遠のき、上半身をベッドから落とす。

先ほどの付添人が様子を見に部屋をあけ、アスカの異変に気が付き、慌てて容態をみる。

急いで部屋を出て、再び看護師らをつれて戻ってくる。アスカ色々措置をされたのちベッドごと部屋から運び出される。その間もスクリーン上では、以下のようにアスカの映像は続いていく。

B        これで、あの日の約束が、ようやく果たせるわ。  
今度一緒に遊びに行こう・・・そう約束したまま、70年も時がたってしまった。  
でも、あれは嘘じゃない。最後にかなえば、それは嘘にはならないから。そうよね。  
ふたりとも、今日はありがとう。  
（部屋の外を気にして）じゃあ、呼ばれてるから、私、抜けるね。  
じゃ、バーイ！

アスカが抜ける。しばしの間。

W        ...まったく...相変らず...  
E        うん...変わってないね...アスカらしい  
W        結局、記念写真はとれんまんまじゃ。

二人、おかしくなって笑う。

E        ...ほんとに...あえる...かな...  
W        ...うん、今度こそわしらが、アスカのところに行ってもいいわけだし。  
E        うん、そうね。  
W        （時計を見て）いかん、もうすぐ、孫たちが来る時間じゃ。そろそろ、抜けるな。  
E        うん、またね。  
W        リン...幸せか？  
E        どうでしょう。禍福はあざなえる縄のごとし...ですから。

ユウスケ、うなずき、抜ける。  
リン、しばらく画面を見つめたまま、動かない。

E        （ゆっくりと窓のほうを見る）今日は雪ね...

リン、傘をひろげる。  
辺り一面に雪が降りつもる。

暗転